

「がん難民」をつくらないために標準治療^{プラス}

2021
10
vol.160

統合医療で がんに克つ

特集

サプリメント・健康食品

がん治療におけるサプリメントと

天然の抗がん物質「サルベストロール」

柳澤厚生 国際オーソモレキュラー医学会会長

病気・がん・サプリメント

矢山利彦 バイオレゾナンス医学会理事長

医療法人山桃会 Y. H. C. 矢山クリニック理事長

当院におけるがん治療

—サプリメントを中心に—

堀田由浩 希望クリニック院長

エゾウコギの健康への貢献

武田秀勝 札幌医科大学名誉教授

BFLクリニック

齋藤信子院長・増田陽子医師に訊く

対症療法ではなく機能性医学による根本治療が重要なのです
—体の機能に対する科学を基に、原因を見つけて改善し健康に
なっていたく

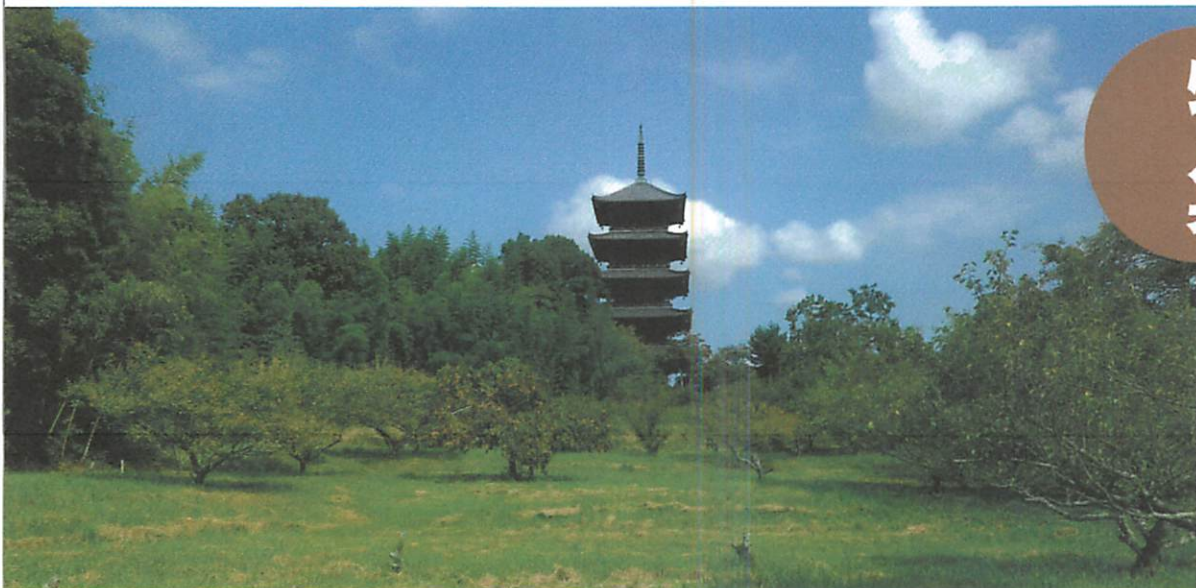
ながともクリニック 永友章院長に訊く

私のがん治療

「内なるエネルギー」が引き出される
がんを「呼びかけ」と受け止め「私が変わります」を実践すると

特別
インタビュー

シリーズ
医療の現場から



統合 医療は

患者さん本位の医療とは あきらめない



古田 一徳
医療法人社団ケーイー
ふるたクリニック 理事長

「オゾン療法」は、以前は日本で「血液クレンジング療法」と呼ばれていましたが、これは造語であり日本では通じません。欧米では、「大量自家血液オゾン療法 Major Autohemotherapy (MAH)」といわれていますが、本稿では、MAHのことをオゾン療法と述べます。

オゾン療法が種々の疾患に応用でき、効果が期待できる理由は、その作用機序にあると思います。日本では、日本酸化療法医学会、日本医療・環境オゾン学会が研究を進めていますが、海外での研究は非常に歴史があります。

オゾン療法の分子生物学的な作用について

他の施術と違うオゾン療法

オゾン療法が他の施術と決定的に違うのは、相反する2つの作用

があることだと思います。まず、免疫を上げるために炎症反応がおきます。その炎症反応は放つておくと暴走し、最近の新型コロナウイルス感染症でニュースになった

サイトカインストームの状態に陥ります。しかし、オゾンと血液が接触するときに産生される物質の作用で、その炎症を抑えてグルタチオンに代表される酸化物質が生成されることがわかっています(図1.2.3)。

オゾン療法は炎症賦活作用とそれに続く抗炎症作用と酸化作用があります

オゾン療法は、抗炎症作用と酸化作用があるのです。オゾンという酸化ストレスは、炎症を賦活させるNFkBを活性化します。活性化されて炎症性サイトカインやプロスタグランジンなどの炎症性メディエーターが産生されます。また、血管拡張作用のあるNO(一酸化窒素)も産生され、炎症反応は繰り返し拡大します。これを止めるためには、NFkBの活性化阻害作用が必要です。

オゾンと接触した血液の中には、脂質過酸化反応の最終分解物である4-HNE(4-ヒドロキシ2-ノネナル(4-HNE))が生成されることがわかり、この4-HNEが炎症を抑えていることがわかっ

ています。

このセカンドメッセンジャーとも言われる4-HNEという物質が、点滴で患者さんの体内に戻り、全身に行き渡った4-HNEが組織中のNrf2(Nuclear Factor-erythroid 2-Related factor2)という酸化を誘導する核内転写因子を活性化して、酸化系や解毒系の活性化が産まれるのです。

オゾン療法では、抗炎症作用が働き、酸化力も上がるのです。その上、自身の体を刺激して酸化力を上げるので酸化化サプリメントとはまったく違いますし、安全なのです。

オゾン療法には血管拡張作用があります

以前からオゾン療法の作用として、血管拡張作用があり全身の血液循環を良くする効果があることが研究で証明されています^②。

この論文の症例数は少ないですが、オゾン療法前後での頸動脈(首)の血流、つまり脳内への血流)の血流を測定した結果、血流量が増加していたと報告しています。血液の流れが良くなったということです。

1週間に3回施術した後での評

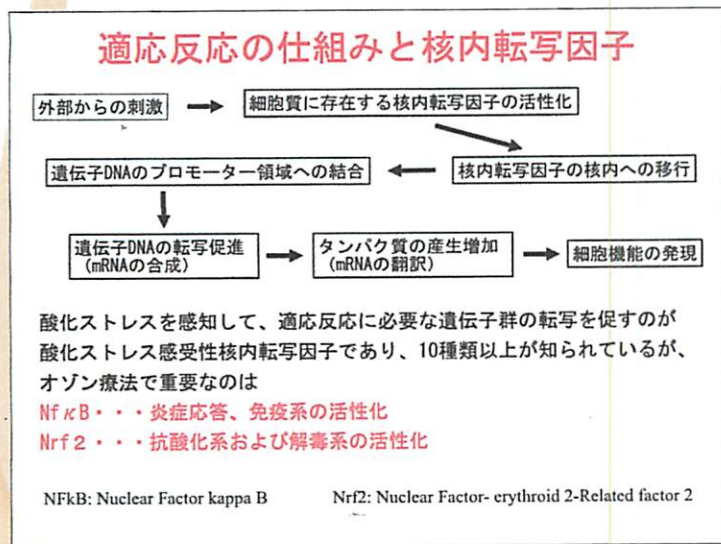


図1

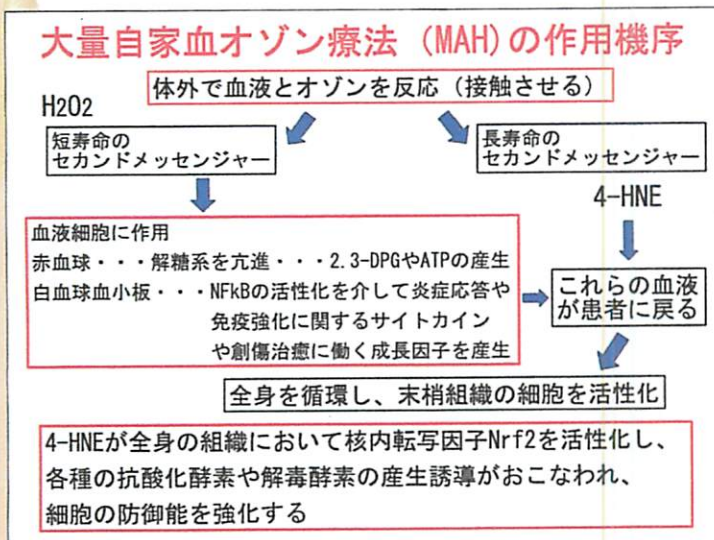


図2

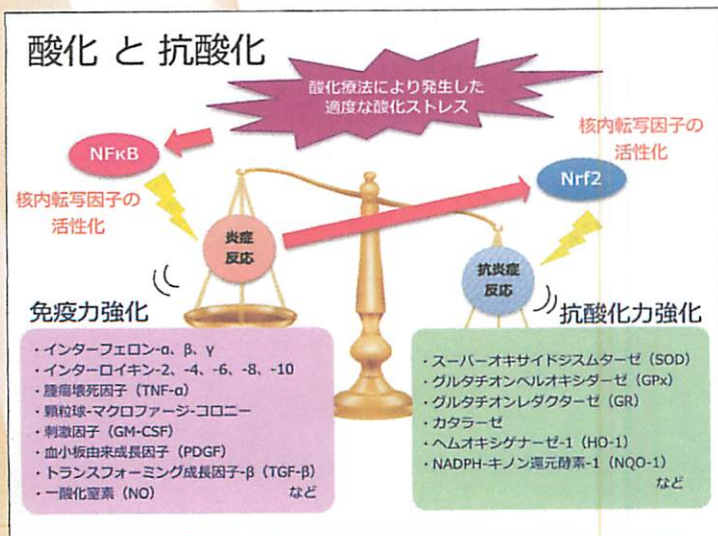


図3

「オゾン療法が、がん治療における補助療法になります」

「オゾン療法は、がん治療における補助療法になり、がん治療において重要な役割を果たしています。オゾン療法は、がん治療において重要な役割を果たしています。オゾン療法は、がん治療において重要な役割を果たしています。」

「オゾン療法は、がん治療における補助療法になり、がん治療において重要な役割を果たしています。オゾン療法は、がん治療において重要な役割を果たしています。オゾン療法は、がん治療において重要な役割を果たしています。」

「オゾン療法は、がん治療における補助療法になり、がん治療において重要な役割を果たしています。オゾン療法は、がん治療において重要な役割を果たしています。オゾン療法は、がん治療において重要な役割を果たしています。」

「オゾン療法は、がん治療における補助療法になり、がん治療において重要な役割を果たしています。オゾン療法は、がん治療において重要な役割を果たしています。オゾン療法は、がん治療において重要な役割を果たしています。」

古田一徳(ふるた・かずのり)

1986年 北里大学医学部卒業、外科入局。1987年 長野厚生連北信総合病院。1989年 元国立小児病院外科。1992年 北里大学外科助手。1995年 新潟中条中央病院外科医長。1997年 前国立大蔵病院外科(現国立成育センター)。1999年 北里大学医学部外科診療講師。2001

年ドイツ・ベルリンフンボルト大学一般・移植外科(短期留学)。2005年 北里大学医学部外科専任講師。北里大学外科肝胆脾主任。2010年 北里大学外科准教授、北里大学外科非常勤講師を経てふるたクリニックを開院。医療法人社団ケーイー ふるたクリニック 理事長

因子は減少し、抗酸化を促すNrf2という因子は上昇していたというものです。このことは、オゾン療法の効果そのもので、抗がん剤の副作用を軽減していたということです。

クリニックの臨床の現場で、抗がん剤の副作用により体が疲弊して来られる患者さんがかなりいらっしゃると思いますが、抗がん剤治療の期間にオゾン療法を週1回ほど受けると、副作用である全身倦怠感、食欲不振、手足症候群などが軽減され、骨髄抑制も軽減されることが多いのです。副作用の症状がまったくなくなるわけではないのですが、「とても楽になりました」とおっしゃってくださる患者さんがほとんどです。

また、血液検査では、白血球や血小板の回復が早くなっています。これは骨髄機能の改善のためだと考えられます。

このように、オゾン療法はがん治療の補助療法としても非常に有益だと、日々実感しています。それは、過剰な活性酸素を軽減し、造血機能の向上もするために、結果的に抗がん剤の治療の継続が可能になることが多いからです。

● 感染症に対してのオゾン療法

2020年のロシアのクルスク州の医科大学からの報告は、グルタチオンが感染症予防には非常に重要という内容でした⁶⁾。グルタチオンはもともと体内で産生されるものですが、これが減少していると感染症に陥り重症化するというのです。

新型コロナウイルス感染症の患者さんを調べてみると、体内のグルタチオン濃度が低下していて、重症化したり死亡されたりした方はさらに、グルタチオン濃度が低下していたのです。

グルタチオンは点滴もあります。オゾン療法ではまさに体内でグルタチオンが産生されて増加することがわかっていきます。そして、グルタチオンには強力な酸化作用があり、グルタチオンの上昇は免疫力アップにつながると思います。これらのことから、オゾン療法は感染症予防対策としても有用と考えています。

● まとめ

オゾン療法はさまざまに有効な効果が証明されてきています。

がんの補助療法としても非常に有用であり、さらに感染症予防対策にも効果があると、クリニックで施術をさせていただきながら、日々実感しています。

参考文献

- ① Gulnur Tasci Bozbas* and Omer Faruk Sendur. New Therapeutic Approach in Rheumatoid Arthritis: Ozone. Department of Physical Medicine and Rehabilitation, Adnan Menderes University Medical Faculty, Aydın, Turkey. Int J Physiatry 2016; 2:007 Volume2
- ② Department of Radiation Oncology and Research Unit, Dr Negrin Hospital, C/ Barranco la Balena s/n, 35020 Las Palmas (Canary Islands), Spain. Ozone Therapy on Cerebral Blood Flow: A Preliminary Report. Bernardino Clavo, L27,* Luis Canal,3,7 Juan L. Perez,2,4,7 Victor Rodriguez,5 and Francisco Robina,2,6,7. Evid Based Complement Alternat Med. 2004 Dec; 1(3): 315-319.
- ③ Bernardino Clavo, et al. Ozone Therapy as Adjuvant for Cancer Treatment: Is Further Research Warranted? Research Unit, Dr. Negrin University Hospital, Las Palmas, Spain. Evidence-Based Complementary and Alternative Medicine. Volume 2018, Article ID 7931849, 11 pages
- ④ U. TIRRELLI, et al. Oxygen-ozone therapy as support and palliative therapy in 50cancer patients with fatigue - A short report. Tumor Center, CFS, Fibromyalgia and Oxygen Ozone Therapy Unit, Mede Clinic, Sacle (PN), Italy. European Review for Medical and Pharmacological Sciences. 2018; 22: 8030-8033
- ⑤ V. Simonetti, et al. Ozone Exerts Cytoprotective and Anti-Inflammatory Effects in Cardiac Myocytes and Skin Fibroblasts after Incubation with Doxorubicin. ONLUS Foundation, Turin, Italy. Evidence-Based Complementary and Alternative Medicine. Volume 2019, Article ID 2169103, 9pages.
- ⑥ Polonikov AP, Polonikov A. Endogenous Deficiency of Glutathione as the Most Likely Cause of Serious Manifestations and Death in COVID-19 Patients. Department of Biology, Medical Genetics, and Ecology and Research Institute for Genetic and Molecular Epidemiology, Kusk State Medical University, SACS Infect Dis. 2020 Jul 10;6(7):1558-1562.

ふるたクリニック

川崎市麻生区百合丘 1-19-2 司生堂ビル 1F
044-959-5116
<https://www.furuta-clinic.jp/>

メディカルブランチ表参道

東京都港区北青山 3丁目 9-7 表参道 N&N ビル 3F
03-5774-2057
<http://www.medical-brunch.jp/>

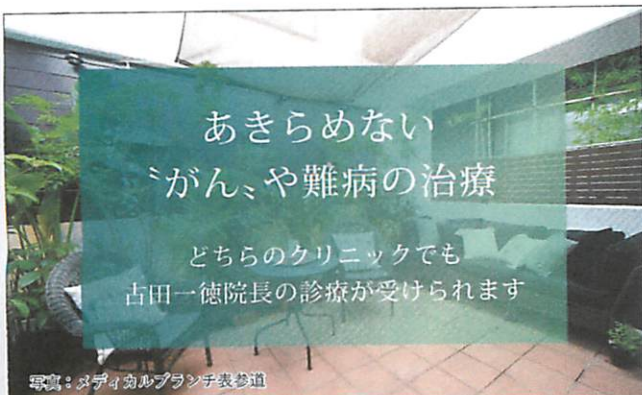


写真: メディカルブランチ表参道